

■ 学会報告

第24回学術集会を終えて

望月輝一

愛媛大学大学院医学系研究科 放射線医学教室

第24回日本心臓核医学会総会・学術大会は2014年7月18日（金曜日夜）～19日（土曜日）にかけて松山市ひめぎんホール（愛媛県県民文化会館）で開催された（大会長：望月輝一、実行委員長：宮川正男、事務局：城戸輝仁）。テーマは「マルチモダリティで心筋虚血を極める」とさせていただいた。当番校である愛媛大学放射線科では心臓核医学とともに心臓核医学のアイデアをCTやMRに活かして、薬剤負荷心筋パーフュージョンCTやMRを行っているの、独りよがりの心臓核医学にならないためにもCTやMRの心臓イメージングの現状や最前線を知っていただきたいとの思いを込めた。第1日目は夕方から理事会と評議委員会のあとにイブニングセミナーを開催し、ここでは心臓核医学と関連はするものの普段は勉強の機会の少ない内容を準備した。心臓病の大きなリスクである高血圧と降圧療法に関して檜垣實男愛媛大学医学部附属病院長に、また長年にわたり毎年モンゴルで小児循環器診療の指導を行っている檜垣高史小児科准教授に「モンゴル渡航小児循環器診療」について講演していただき大変好評であった。私もいかに心臓核医学のアイデアを心臓CTに活かしてきたかについて前座講演をさせていただいた。

メインの第2日目には(1)一般演題(口演とポスターセッション)、(2)基調講演「私の歩んだ心臓核医学～心臓核医学の開拓・推進・普遍化を目指して～（西村恒彦先生：京都府立医科大学）」、(3)シンポジウム2つ「マルチモダリティで心筋虚血をみる」、「心臓の画像解析最前線」、(4)ランチョンセミナー2つ「PET/CTを用いた心疾患診断（百瀬満先生：東京女子医大）」、「新しい解析ソフトウェアによる心筋血流イメージングの新たな展開（中嶋憲一先生：金沢大学と笠井督雄先生：東京医科大学八王子医療センター）」、(5)特別講演Ⅰ「MRIとCTによる心筋虚血診断：有効性と問題点（佐久間肇先生：三重大学）」、特別講演Ⅱ「心臓核医学のこれからの10年を見据えて（玉木長良先生：北海道大学）」を行った。

大会の企画・準備を行ううえで、企画はいろいろとアイデアが出てきて楽しくできるのに対して、一つ一つをプログラムして準備していくことは非常に大変な作業であることを実感した。（実際に大変だったのは実行委員長と事務局、そしてサポートして頂いたコンベンションリンケージさんですが・・・）

多くの方のご参加・ご協力に感謝致します。



販わう情報交換会場（左）とミカンジュースの出る蛇口（サーバー）（右）